



本校では、各学部で進路に関する取り組みをしています。それぞれの学部での取り組みをお知らせします。

## 中学部の取り組み

中学部では、小学部で培った土台の上に、日々の学校生活の中で基本的な生活動作を身に付けたり、自分の気持ちを伝える力や主体的に任された役割を果たす力を育成したりしています。また、校外学習や卒業後の進路を考える学習を通して社会の様子を知り、将来の豊かな生活や働くことへの興味・関心を高める学習にも取り組んでいます。

### A 部門

#### Ⅱグループ（総合的な学習の時間）

高等部卒業後の生活や仕事について先輩に話を聞き、仕事や自立に必要な力を考えたり、自分の将来像についてイメージをもったりすることができる。



就労して自立した生活を送っている先輩を招き、事前の質問をもとに仕事の実際や生活の様子について話をいただきました。やりたい仕事をするためにいろいろな準備や勉強に取り組んだこと、仕事を探す方法、仕事を始めてから気づかされた「周りを見る」ことの必要性などの話を聞いたり、車に一人で乗降して運転する様子を見せてもらったりしました。先輩の経験に基づいた話に、時に質問をしながら真剣な表情で耳を傾けていました。聞いたことをもとに今の自分の生活を振り返り、これから必要なことや取り組んでいけそうなことを考えたり調べたりし、少しずつ実践につなげていこうとしています。

#### Ⅲグループ（せいかつ）

働くことの実感や意義を知り、集団の中での役割を意識することができる。  
積極的に人と関わり、主体的に生活する力を培うことができる。

「せいかつ」の時間に布を染めて、その布で製品を作りました。ぶどうジュース、シソ（赤・青）やバジルなどの中から、材料の香りを嗅いだり色を見たりして自分で好きな材料を選んで染めました。次に分担して染まった布で、ポプリ（匂い袋）、ティッシュケース、巾着袋を3班に分かれて作りました。ポプリ班は、スプーンでポプリの材料を混ぜて香りをつけて、染めた布の袋に入れました。アイロン班は、布にアイロンを当てて、出来上がったものを次の作業をする人に大切に届けました。ミシン班の人は、縫い始めと縫い終わりの返し縫いと直線縫いで、手元をよく見て集中して縫いました。作業が終わったときに「できました。」と報告したり、友達に手渡すときに、「お願い（します）。」「ありがとう。」と言葉や発声、動作などでやり取りをしたりしました。

このように、自分の役割が分かって活動を頑張ったり、身近な人に自分の作ったものをあげて喜んでもらい働く意欲を育んだりしています。



## B 部門

### 1年生:様々な仕事や将来の生活への関心

1年生は、ありがとうファーム（就労継続支援 A 型）へ事業所見学に行きました。

中学部になって初めての事業所見学でした。実際に働いている方に質問したり、アート作品の制作や食堂で働く方の様子を見たりして、どのような仕事をしているのかや、働くことの楽しさを感じることができる時間になりました。事業所見学の振り返りでは、働いている様子を見て「高等部卒業後にどうなるのか不安を感じていましたが、卒業生の働いている様子を見て安心した」などの感想をもち、将来へのイメージを膨らませることができました。



### 2年生:将来の生活と自分の役割

2年生では桑野フレンドリーハウス（生活介護）、桑野ワークプラザ（就労継続支援 B 型）、クリーンメイト（就労継続支援 A 型）を見学したり作業体験をしたりしました。実際に働いている社会人の方たちの様子を見て将来の自分の姿をイメージし、働くこと・社会人になることへの興味関心をもつことができました。社会で働くためには、挨拶や身だしなみ、丁寧な言葉遣いに気を付けなければならないことや、毎日働く体力が必要なことも教えていただきました。また、クリーンメイトでは、モップを使っての拭き掃除のやり方を教えていただき、貴重な働く体験をすることができました。



この見学・体験から、将来の生活に向けて、学校生活で行っている自分の役割を果たすことの大切さを学ぶことができました。

### 3年生:学びの振り返りと次につなげる取り組み

3年生は、中学部卒業後の進路について学習しました。高等部での生活や、その後の社会人となって働くことについて学習を深めていきました。高等部の作業見学・体験に向けて学習することで、様々な作業を行っていることが分かり、高等部での生活をイメージすることができました。今までの自分を振り返り、将来について考えることで、あいさつの大切さ、作業学習での「報告・連絡・相談」の大切さなどに気が付くことができ、日頃の生活を見直すことができました。



進路学習を通して、さらに一回り成長することができました。